

平成 18 年 6 月 12 日

4 号機原子炉再循環ポンプ（A）軸封部の監視強化について

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

当所 4 号機は定格熱出力一定運転中ですが、平成 18 年 5 月 28 日頃より、原子炉再循環ポンプ（A）の第 2 段軸封部（メカニカルシール）*¹の温度に一時的な上昇が見られました。その後、温度は安定しておりましたが、6 月 11 日から再度、同軸封部の温度上昇傾向が見られ、本日午前 8 時 21 分頃、一時的に 77℃となりました。現在、同軸封部の温度は 70℃前後で推移しております。

このことから、本日より関連パラメータの確認頻度*²を増やし、監視を強化*³することとしました。

本事象は、第 2 段軸封部に何らかの不具合が生じているものと推定しておりますが、当該ポンプのシール機能は維持されていることから、ただちに当該ポンプの運転に影響を与える状態ではありません。

（添付「4 号機原子炉再循環ポンプ軸封部概略図」参照）

これによる外部への放射能の影響はありません。

以 上

* 1 : 軸封部（メカニカルシール）

ポンプ内部の水（冷却材）が主軸を通してポンプ外部に出ないようにするために設けられている部分。軸封部は 2 段構成となっている。

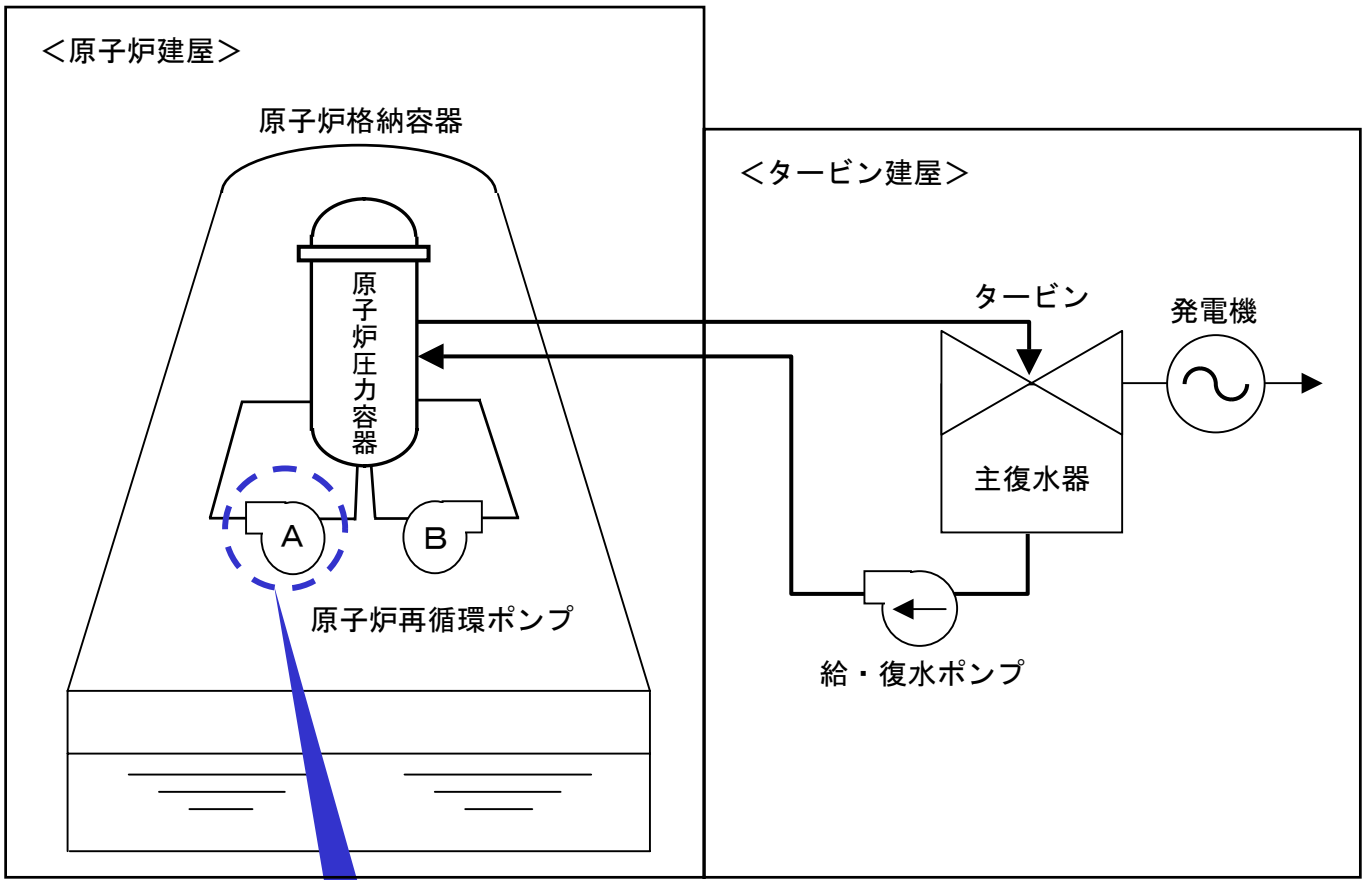
* 2 : 関連パラメータの確認頻度

原子炉再循環ポンプ軸封部の圧力、温度および格納容器内低電導度廃液系ドレン流量の確認頻度を 1 時間に 1 回とする。

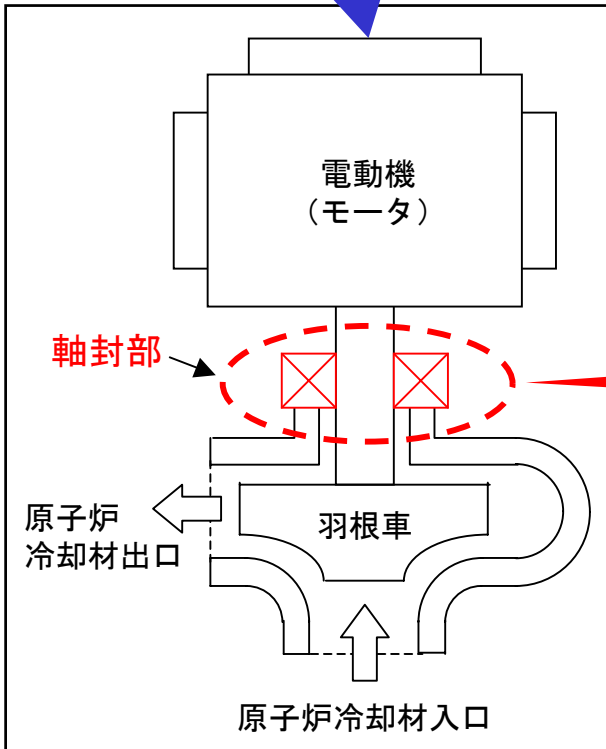
* 3 : 監視を強化

シール機能に関する警報の発生や、第 2 段温度が 72℃以上（通常約 50℃）となった場合などに、監視体制を実施する判断を行った後、監視体制を敷き監視強化を行う。

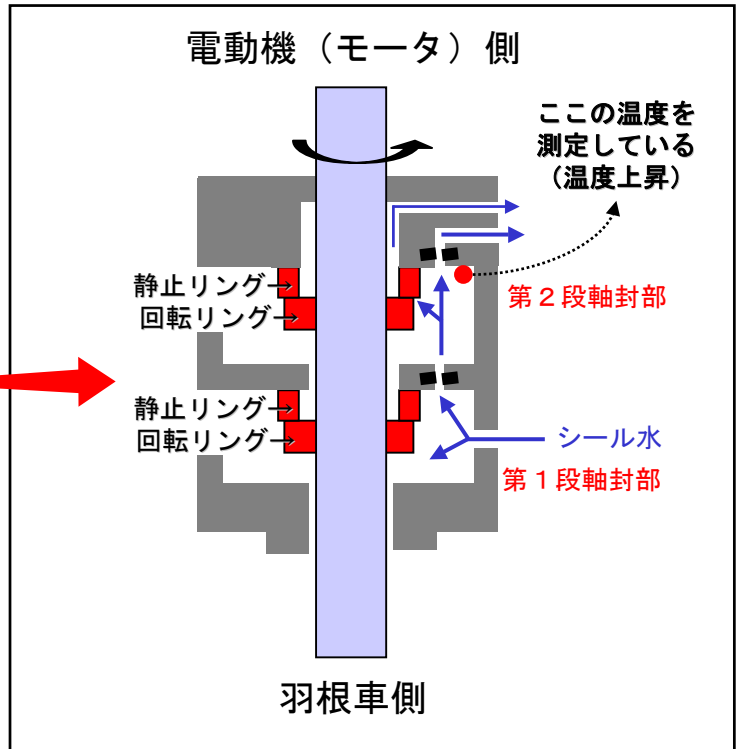
「当社原子力発電所における不適合事象の公表方法の見直しについて」（平成 15 年 11 月 10 日お知らせ済み）における、区分Ⅲに該当するものとしてホームページに掲載したものです。



系統概略図



原子炉再循環ポンプ概略図



軸封部拡大図

4号機 原子炉再循環ポンプ軸封部概略図